



金賞に輝く応援団吹奏楽部の演奏（第46回全日本吹奏楽コンクールより）

自己の確立と 小さな心の変容



関西大学学長
石川 啓

木々が芽吹き、やわらかな日差しがキャンパスを覆うようになって、自然は時を忘れず、春の恵みを与えてくれている。そして今日、長年にわたる学業を終えた諸君が、今年もまた社会へ巣立っていく。

卒業生諸君、卒業おめでとう。まず最初に卒業生諸君に対して心からの祝意を、そして諸君を支えてこられたご父母の皆様方に、満腔の祝意と敬意を申し上げたい。

さて、いま学園生活を顧みて、諸君がこの学園で身につけたこと、なし得たことは何であつたのであろうか。諸君の一人ひとりがこれこれなのだと言を張って言っていたのだと思う。

いま諸君の脳裏には、希望溢れる夢があるに違いない。諸君はその夢を実現するため、これからも努力し挑戦していかれるであらう。諸君が夢を実現されることを心から願う。しかしながら、諸君がその第一歩を踏み出す現在の社会は、先行ききわめて不透明かつ不確定であり、ことにわが国の経済は、地球的規模の大競争の波に巻き込まれ、混沌の度を深めている。したがって諸君の夢が、平坦な軌道に乗って実現されるという保証はない。これからの人生はむしろ起伏と波乱に富んだものであるということを感じておかなくてはならないであらう。

我々一人ひとりは、いま何をなすべきなのか。それには、まず自分とは何か、自分が人生でやりたいことは何かをしっかりと考えることから始める必要があるのではなからうか。言い換えれば、自己の確立と思考の自律である。それがはっきりしてくると、自分と他人、自分と家族、自分と会社、自分と社会、自分と国家との関係が見えてくる。もちろん、独りよがりでも考えていても意味がない。自分の考えていること、やりたいことをみんなに分かる言葉ではっきりと伝えることも必要である。その過程で、他の人の意見を聞き、自分の考えの足らざるを補うことも必要であり、硬い殻に閉じこもってはいけな

い。目指すべき二十一世紀の社会はどんなものなのか、その有り様は、一人ひとりの心の中の小さな、しかし困難な変容なしには見えてこないのではなからうか。

諸君がその英知と活力をもって、自己の確立をはかり、自分の硬い殻に閉じこもることなく、社会の各界各層において健やかに活躍されることを衷心より願う。

卒業式のシーズンには、季節がめぐってくることをあらためて感じるときもある。寒く凍えるような入試のころがすぎ、日差しもしたいに暖かさを増すと、花のつぼみや緑の芽もふくらんでくる。眠っていた自然が再び動きだす気配が、日本の自然の特徴である。はつきりとした四季の移り変わりを感ぜずにはおかないからだろう。しかし最近では、エルニーニョ現象の影響だろうか、いかにも夏らしい暑い夏が来なかったり、凍てつく冬のない暖冬だったり、どうもめぐる四季にイレギュラーなところが目立つような気がしてならない。これも排気ガスなどによる温暖化の結果ではないかと心配せざるにはいられない。余計な取り越し苦労だったらいのだが、▼関大のキャンパスには、くすのきやけやきの花木、また桜や木蓮などの花の咲く木も多くて、自然の移り変わりを肌で感じられる環境がある。しかし、卒業してゆく諸君の多くにとつては、これからの生活環境は都心のオフィス街が中心で、一年間ほとんど季節の変化も知らないで過ごしてしまふような人工空間だ。自然のない環境に人間は長く耐えられるだろうか？人工空間に疲れたら千里の丘の大きな木々でも思い出してほしい。（若田恭二）

HEADLINE

- 2 面 卒業式を挙行
- 4・5 面 第2部教育体制を改革
- 6・7 面 卒業生からのメッセージ
- 8 面 大学を去るに当たって
- 卒業されるみなさんへ

際社会での活躍に拠点を握って、出世した。

表題の「バラライタ」とは古キリシアのレスリング道の謂。爾來、閑大健児をば、その青春の道場で自らを試し鍛えた。

閑大レスリングは、東京五輪の金メダリストを自慢してよい。

(文学部教授)

► 編集後記 ◀

まず、「一言」「卒業おめでとう」と申し上げる。おおかたの人は幼稚園か